

研究プロジェクト4「立教中学校関係資料研究」報告

油井原均

立教池袋中・高等学校史料室には、関東大震災後に池袋に移転してからの立教中学校に関連する数多くの資料が所蔵されている。とくに、旧制中学校期の資料のなかには、行政からの通達・学校からの報告提出書類の綴り（簿冊）や、年度末学事報告・教職員履歴、さらには当時の中学校教員により記録された「教務日誌」などの貴重な一次史料がふくまれている。資料の大部分は、元立教中学校教諭で立教学院百年史および一二五年史編纂委員でもあった伊藤俊太郎氏の多大な尽力により収集・整理されたものである。

立教中学校関係資料研究は、これらの貴重な資料を生かしつつ周辺資料の整理も進め、来たるべき一五〇年史編纂に備えて研究の推進を図ることを目標としている。プロジェクトの第一回研究会は二〇一〇年三月に開催された。メンバーは、前田一男（立教大教授）・安達宏昭（東北大准教授）・奈須恵子（立教大教授）・大島宏（東海大講師）・油井原均（センター学術調査員）であ

る。このときの議論により、以下の諸点が確認された。

- ・まず、資料整理が進み簡易目録が作成されている旧制立教中学校に関係する資料を対象として検討を進めていく。
- ・これまでの沿革史類などの成果をふまえつつ、他の中学校や東京府全体の動向などを視野に入れつつ研究を推進していく
- ・比較的長期間継続的に残されている史料の整理と目録、および基礎データ作成をおこなっていく。
- ・伊藤俊太郎氏に協力を依頼し、資料等にかんする助言を適時いただく。また研究の推進状況と整理データ内容などについても連絡を密にしておく。
- ・史料室所蔵資料にとどまらず、より広範に資料の収集をすすめていく。

その後、伊藤氏からも会への協力について快諾をいただき、活動をはじめることができた。

二〇一〇年四月以降は、資料群内に残されている職員履歴書、昭和初期学事報告、卒業生進学先調査などの整理をおこないながら議論をおこなってきた。本誌にもその成果の一部を報告しているので参照していただきたい。

次年度以降は、これまでに整理した資料や、その一部

がテキストデータ化されている立教中学校「教務日誌」などをもとにして、府（都）内中学校全体のなかでの立教中学校の位置づけに関する検討や、在籍生徒の進学動向分析などを進めていきたいと考えている。